

☆令和 4 年 4 月 24 日（日）：



「アートシーン」第 2 回



今回は、作品展でもたくさん出品していただいた北岡 青（しょう）さんをご紹介します。

息子の青は 25 歳。アスペルガー症候群で 4 歳の時に障がいがあることがわかりました。

周囲にはあまり興味はなく自分の世界があり、興味のあるものに対しては探求心が強く図鑑を隅々まで読み、レゴやプラモデルを作るなど一人の時間を楽しんでいました。年齢以上に来る事と年齢に達していても出来ない事の差が激しく、感覚的に物事を捉え、ひらめきに従って行動するような子どもでした。これは今も変わらないように思います。

青のものづくりの原点は消しゴムのカス。

小学校では、授業中に消しゴムのカスを集めて練り、その感触に強いこだわりを持っていました。安心するのか肌身離さず常に持ち歩き、それで器用に昆虫や恐竜の頭骨を造るようになり驚かされました。フィギア制作に使う粘土を探し与えるものの、青の望む感触ではなかった。人づてにフィギア作家さんから消しゴムのカスの感触に近いというプラスチック粘土を紹介してもらい、ようやく求めていた粘土と出会うことが出来ました。

それからは身の回りにある物を使い我流で造り始め、高校 3 年生の秋、青の作品が偶然出会った彫刻家の目に留まり、大学進学を勧められ、本人の強い意志もあって作品で受験し、名古屋芸術大学に進学しました。片道 3 時間かかる通学と長い授業、それにも関わらず知らない事を知るのが楽しいと、水を得た魚のように毎日生き生きと通っていました。

大学入学の年、初めての個展「小さなきらめき」を伊勢で開催。その後県外での展示、子ども達に粘土制作の指導をしたり、作家さんとのコラボで絵を立体化するなど新しい取り組みに挑戦をしています。

これまで決して順風満帆ではなく、本人の挫折や苦悩、困難な事が沢山ありました。小学校支援学級の担任の先生を今も第二のお母さんと慕い、青の事を理解しようとしてくれる方々との出会いや、支援により今があると思っています。現在はリベルタという居心地の良い場所を見つけ、学童保育の子どもたちに囲まれながら日々制作活動に励んでいます。

世界自閉症啓発デー2022HP当事者メッセージに、青の作品動画を掲載していただきました。

http://www.worldautismawarenessday.jp/htdocs/index.php?action=pages_view_main&page_id=166

☆「世界自閉症啓発デー2022HP当事者メッセージ」は、[ここをクリック](#) ⇒ **Click**

コンテンツ ②「発達障害のある当事者と支援者からのメッセージ」 16 分半ごろから登場です。お時間ありましたら是非ご覧下さい。

(文責：津ブロック 北岡)

